

平成27年度作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部

学位記授与式 式 辞

弥生3月、春の日とはいえ寒さが未だ残るなか、本日ここに、卒業生・修了生の皆様が、学位記を手になされ、本学から新たな世界に巣立っていかれることに対し、大学教職員と在校生を代表して心からお祝い申し上げます。また、今日の日に至るまで皆さんを支えてくださったご両親、ご家族の方々に、心からお祝い申し上げます。

栃木県知事福田富一様をはじめ、ご来賓各位にはご多忙の中を本学の学位記授与式にご臨席賜り、心からお礼申し上げます。

平成27年度の作新学院大学の学位記授与者は次のとおりです。

大学院経営学研究科経営学専攻博士前期課程修了者は、アカデミックコースの修了者18名が修士（経営学）の学位を取得しました。大学院心理学研究科臨床心理学専攻修士課程修了者は、修士（臨床心理学）の学位を取得した者15名です。大学院修了者は、合計33名が修士の学位を受けました。

学部卒業生は、経営学部107名が学士（経営学）、人間文化学部67名が学士（人間文化学）、合計174名が学士の学位を受けました。学部卒業生と大学院修了生の中には海外からの留学生41名が含まれています。

また、女子短期大学部幼児教育科の卒業生は、136名であり、短期大学士（幼児教育）の学位の授与を受けました。

本日ここに学位を授与された皆さんは、作新学院の建学の精神「作

新民」から導かれる「自学・自習」「誠実・勤労」の二つのキーワードを胸に、大学及び女子短期大学のそれぞれの専門分野において研鑽を積み、自ら行動する若者として、物事を本質的に、そして総合的に捉えるアプローチの方法を学びました。これからは、社会の中で、より実践的な専門性、より高い総合力、そしてスピードある行動力を持って活動するとともに、社会の一員として、一人の若者として、世界のありようと人類の未来を見据える見識を持つことが求められます。

大学学部の卒業生は、企業や公共の事業所、教育現場等において活躍され、女子短期大学の卒業生のほとんどの皆さんは、保育所の乳幼児の保育や幼稚園の幼児教育という大切な役割に就くことになるでしょう。大学の卒業・修了や学位の取得は、人生の大きな「節」であり一つの区切りです。しかし、この区切りは「勉学の終わり」ではありません。本当の勉学は、社会における「実践」の場で、これからが始まりであり、皆さんが大学において学んだ理論を実践の場にどのように適用し生かせるか、生涯を通して学び励むことを願っています。

さて、いま日本は、大震災・津波・原発事故の災禍から立ち上がる復興・復旧のさなかにあり、その收拾には未だ先が見えておりません。昨年、仙台で開催された世界防災会議において、東日本大震災のもたらした教訓の一つとして、「レジリエントな社会づくり」の重要性が揚げられました。「レジリエンス」とは、もともとは

物質に加えられた外力に対する弾力性や復元力を表す物理学の用語ですが、「レジリエントな社会づくり」は、大震災という自然災害や原発事故という人災に抗する、社会の復興と人々の精神的な回復力のあるコミュニティ創りにあります。大震災と原発事故の現況は、科学の限界や人間の力の小ささと^{はかな}儚さを否応なしに感じさせます。しかし、発生した大災害からの復興と大きな問題の解決を図るのは、やはり、正しい科学の力と合理的な人間の思考と行動によりなされねばなりません。大震災と原発事故は、奇しくも、人は自分一人の利益、自分一人の幸福のためにだけ生きるのではなく、「人間的・倫理的な生存」と「人間と自然との共生」そして「世界の人々との連帯」を目指し、人と人との絆を結び、人間が安心して暮らせる、心の幸せを復活させる活動に参加しなければならないことを私たちに^{さと}諭しました。はからずも、五百年、千年に一度の大震災に高校生・大学生として遭遇した皆さんは、これを生涯の教訓として、明日を信じて高々とした“希望と夢”を持って、元気な日本を創っていくために、自らの活動を進めてほしいと願っています。

また、世界に目を転ずれば、シリア・イラクにおいては民族・宗派・主権国家による対立が戦争として常態化し、それから逃れようとする多数の人々がヨーロッパ諸国に難民として押し寄せ、その対策に各国が混迷しております。顕在化するテロリズム宗派ISがヨーロッパのみならず世界の国々において「テロ戦争」を仕掛け、これとの戦いはこれまでの主権国家間の「対称な戦争」とは異なる主権

国家群とテロ集団との戦争という「非対称の戦い」であり、日本の私たちを含めて世界の人々が深刻な不安を抱えています。

皆さんは、これらの課題を乗り越え、社会のために、世界のために自分がどう役立つのか、元気な日本を創っていくために、社会の中で自分には何ができるのか、ということを一人生が考えながら、社会人としてグローバルな視点に立って自らの活動を進めてほしいと願っています。そして、皆さんのその力は、全国の同世代の若者との「人間力」の絆に繋がるものと私は確信しています。

私は、皆さんの新たな門出に際して次のメッセージを贈ります。

それは、「やればできる、一歩前へ！」という気構えの醸成です。これはさまざまな困難に立ち向かうときに、「楽観的な視点」を持つとうということ。もっと砕けて云えば、「自己主張しよう！」ということ。昔から「出る杭は打たれる」と言われますが、「沈黙は金」で引っ込み思案では、いくら立派に思索してもその主張は誰にも見えません。国家間あるいは分野間の垣根が崩れるボーダレスの時代には、自由闊達な起業家精神に満ちた「自己主張」が求められます。「自己主張」には、勇気とエネルギーが必要です。それには強い意志を持って、失敗することがあっても「くじけない」「あきらめない」ことです。「あきらめ」たらその先がありません。大切なことは、失敗しないことではなく、倒れるごとに起き上がることにあります。志を高く、夢と倫理観を持って、常に起業家精神を

持ち続け、決して奢ることなく励む人間であることが大切です。

以上が学位記を手にした皆さんに贈る私のメッセージです。

本学は、ここ数年の間に「地域との連携協力」をモットーに、いくつかの大学改革に取り組んでまいりました。ここで、その主なる大学改革について照会し、その発展のために皆さんのご理解とご支援をお願い申し上げます。

その第1は、スポーツによる地域の活性化を目指して、経営学部^{ふせつ}にスポーツマネジメント学科を設置し、人工芝敷設サッカー場の整備等を行い、多数の学生を迎え入れました。県内の4つのプロスポーツチームと連携協力協定を締結し、「地域に貢献し地域とともに歩む大学」として、本県のスポーツ界の活性化に貢献するスポーツビジネスの専門家の育成です。2020東京オリンピック・パラリンピック、2022栃木国体において、スポーツビジネス分野で卒業生諸君が数々の新たな活動を展開することを期待しております。

その第2は、人間文化学部において小学校の教諭と特別支援学校教諭の免許状を取得できるよう改革したことです。今年^{今年}は教員採用試験において特別支援学校教諭の正規合格者を輩出するとともに第1期生9名が学校の教壇に立つこととなりました。また、大学院心理学研究科は、県内唯一の臨床心理士の養成機関として認定を受け、これまでに46名の修了生が、臨床心理士として学校、家庭、病院、事業所等において活躍しております。

その第3は、短期大学部幼児教育科の入学定員増です。平成28年度には、39の道府県が人口減少に転じるなかで、栃木県内の幼稚園・保育所の需要にこたえ、幼児教育科の入学定員100名を130名に増員し、幼児教育者養成の体制を整備しました。

これらの大学改革は「地域に根ざし地域に役立つ大学」を目指す本学の基本姿勢に基づくものであり、ご臨席の皆様のご理解と卒業生・修了生の支援をお願いいたします。

卒業生・修了生の皆さんが、「夢と希望」の実現と「人間性を陶冶」するために作新学院において学んだ誇りを持って、社会人として明日に向かって思い切り活躍されることを期待し、私の式辞いたします。

平成28年3月20日

作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部

学長 太田 周